

明日へ向かって駆ける

農業法人の経営者は語る

農業生産法人「福喜農園株式会社」代表取締役

松村竹治さん

「京丹後産の宇治茶を、他産地に負けないものにしていきたい」と話すのは、京丹後市峰山町の農業生産法人「福喜農園」代表取締役の松村竹治さん(60)だ。

京都縦貫自動車道が大宮町まで延長され、交通アクセスが飛躍的に向上している同市で、茶生産に取り組む。

松村さんは、建設会社も経営。2004年ごろから、公共事業の減少で余裕ができる3〜5月に農業経営ができないか考えていた。府が宇治茶の生産拡大を計画していることを知り、同級

京丹後の茶を銘柄化



▶従業員と共に京丹後産の宇治茶作りに取り組み松村さん(中央)

生ら4人が株主となって、06年に同社を立ち上げた。当初は府内の主要な産地から、異業種から参入した法人がどのような茶を生産するのか、強い関心を持たれていた。「良

い茶葉が取れるまで5年かかる。雪害などで苦しい時期もあったが、仲間や社員と頑張ってきた」と振り返る。10年には同社をはじめ、同市やJAGグループ京都などが共同

の約7割を占めるに至った。「府内の茶生産者から、良い茶園になってきたという声をいただき、励みになっている」と松村さんは話す。

さらに、西日本最大級の道の駅、丹後王国「食のみやこ」に出店。同社の茶を原料とした和洋菓子やアイスクリームなどを販売し、京丹後産の茶のPRに積極的に取り組む。

松村さんは「100畝に規模拡大するのが、当面の目標だ。京丹後産の良質の茶を生産し、この地が宇治茶の一大産地として認められるよう頑張っていきたい」と話す。

法人設立当初、3畝で始めた茶園は、現在は網野、久美浜、弥栄、大宮の4町で32畝に拡大。丹後地域

■法人所在地 京丹後市峰山町赤坂555(電) 0772(62) 0350

■法人概要 2006年9月設立。役員4人、従業員4人、パート1人(農繁期)。経営面積32畝(煎茶20畝、てん茶12畝)。農機具はトラクター1台、管理機2台、摘採機1台、防除機1台。